

令和元年5月30日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02239

研究課題名(和文) 中国中世石刻資料から見る水運と埋葬の連鎖

研究課題名(英文) Chain of water transportation and burial seen from Chinese medieval stone carving materials.

研究代表者

東賢司(HIGASHI, Kenji)

愛媛大学・教育学部・教授

研究者番号：10264318

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中国南北朝時代から隋代において、西安、洛陽、ぎょう(業におおざと)等の王都で作成された石刻資料、とりわけ件数が多い墓誌資料に注目をし、資料間に新しい関連性が見られるかどうかを探る研究である。手法として用いたのが、墓誌資料が河川により運搬され河川周辺の資料には共通性があるのではないかという仮説を検証することである。中国でのフィールド調査、資料収集と分析の結果、古河川・古運河とその周辺から出土した石刻資料の文字には書風や彫刻の技法等の共通性があることが認められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国の古代から中世にかけての研究であるが、この時期の文字、特に「楷書」という書体は、中原や華北平原から朝鮮半島を経由して日本に伝わっている。日本国内に見られる石刻には、この当時の中国国内で書かれていた文字に極似している文字がある。また、日本では奈良時代以降中国の東晋時代に活躍した王羲之の書の影響が強まるが、これを脱却するのが明治時代である。この時期に日本に流入した碑石拓本は、北朝時期の石刻資料が多いのが特徴である。時間的にも距離的にも離れているように思える二地点であるが、中国の中心地域から周辺への漢字の伝承は確実に行われている。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on stone engraving materials created in the royal capitals such as Xi'an, Luo Yang, Ye in the Qin Dynasty from the Southern and Northern Dynasties of China, especially grave journal materials with a large number of cases, it is a research to find out if there is a new relationship between the materials. The method used was to test the hypothesis that grave material will be transported by the river and the materials around the river may have commonality. The method used was to test the hypothesis that grave material will be transported by the river and the materials around the river may have commonality.

研究分野：書道

キーワード：墓誌 墓誌銘 石刻 水運 楷書 隸書 篆書 北魏

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

#### (1) 華北平原や洛陽における石刻資料の書風のつながりと相違

石刻資料には、その時代の流行と言うべき共通性の他に、地域による特性が見られる。例えば、洛陽の黄河を挟む南北の地域での切れのよい墓誌銘の書、華北平原を流れる黄河の北側にある河川の上流と下流から出土した墓誌銘の書の共通性などである。これらになぜ共通性があるのかは長年問題意識を持っていた。

#### (2) 墓誌の運搬の可能性

その疑問を解く鍵が、運河や水路という水運であった。小さな河川を整備し、小舟を使えば、石灰岩のような比重の大きい石材であってもたやすく運搬することが可能になる。実際、中国では、沈船から体調の陶器等が発見されていることもあり、この方法を使えば、長距離の重量物の移動が可能になるという手応えを持った。

### 2. 研究の目的

(1) 北朝時代に洛陽や華北平原を流れていた河川・水路を現代地図に描き、河川周辺から出土した墓誌などの石刻に書かれる文字からどのような共通性が見られるのか、特に書的な性格を比較検討する。

(2) 北魏の都であった洛陽や東魏・北齊の王都であったぎょう(業におおざと)と古河川の関係を考え、これらの都から技術や墓誌作成に関わる者が移動し、数百キロ以上の距離を隔てても技術が流入していた事実を明らかにする。

### 3. 研究の方法

#### (1) 現地調査

研究対象の地域は、河南省を中心とし、陝西省・河北省・山東省の4省を中心に資料の調査収集を行った。

#### (2) 電子化された資料の分析

収集した書籍、電子データ(CNKI等で収集した発掘報告書等)、拓本、写真等はすべて電子化し、大方の資料はデータベースに関連付けをした。

#### (3) 古地図の活用

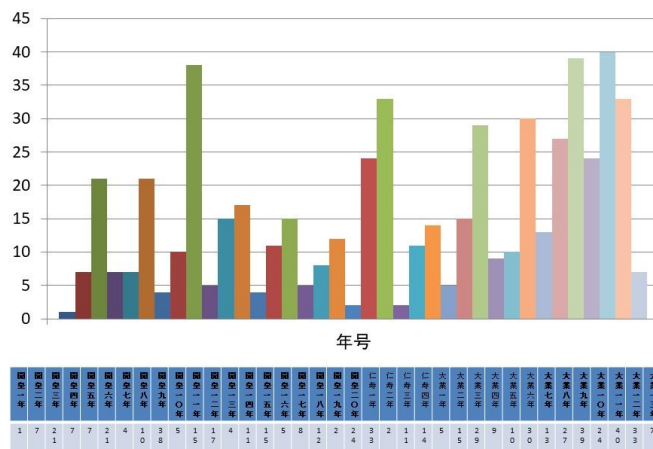
近年は日中ともに貴重書の電子データの公開が進んでいる。中国清時代に南北朝の古地図を再現したものに、楊守敬が編纂した『水経注図』がある。これらには洛陽や華北平原の水路が詳細に記載されており、墓誌の出土地を古地図に配置し、河川と石刻資料の関係が可視化できた。

### 4. 研究成果

(1) 現地調査 本研究は、中世の石刻資料、特に河北地方で出土した墓誌・墓誌銘資料を中心に、墓誌の書と河川には関連性があるのかどうかをテーマとしたものである。主たる研究としては中国でのフィールド調査とその分析である。2016年4月から2019年3月までの3年(度)間に、8回の中国での現地調査を行い、石刻資料の調査、遺址の現地調査、出土資料等の資料収集が実施できた。研究対象の地域は、河南省を中心とし、陝西省・河北省・山東省の4省となった。また、2017年には清代に作成された『水経注図』という書物を調査し、現代地図との比較も行った。

(2) 石刻資料データベースの拡大  
本研究では、南北朝の石刻資料データベースと隋代の石刻資料データベースを作り、出土報告書、出土状況や出土物の文字データ及び画像データをまとめてきた。南北朝資料では、2000件の資料と約85万字の釈文の電子データを、隋代資料では、約1000件の資料と約34万字の釈文

## 隋年代別墓誌作製件数



の電子データを集めることができた（図は隋代墓誌の年代別グラフ）。

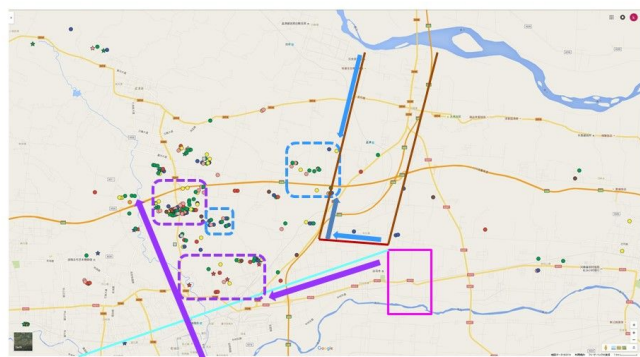
(3)初年度(2016 年度)は、隋代の隷書墓誌銘の書体の流通状況について検討をした。隋代は楷書の時代と言われ、楷書の名作が多く誕生しているが、墓誌銘の書体を見ると、隋の年号を持つ優れた隷書資料も確認することができる。この隷書資料に注目し、隷書墓誌銘が見られる地域と見られない地域の実際、その原因の究明である。まず観察の結果、隋代墓誌銘の楷書の優れた資料は陝西省で作成され、隷書の墓誌銘は河南省で作成されていることがわかった。またその理由としては、南北朝末期の特に北齊から隋に移行する時期の洛陽への人の移動に原因があるのではないかと推察した。

## 墓葬に関わる地形

(4)翌年の2017年度には、河南省洛陽と河南省洛陽から東シナ海まで伸びる清水・白溝という河川周辺から出土した墓誌資料について検証した。具体的には、洛陽地域においては邙山と呼ばれる地域につながる河川から運ばれたものと洛陽城から埋葬地に伸びる陸路の資料では書体に差があることや、現在の都市名で言うと、新郷・濮陽・徳州・滄州周辺から出土した墓誌資料は、洛陽の墓誌資料と共通性があることを突き止めた。その共通性の原因には、比重がとても大きい石灰岩で作られた重量物である石材であるために移動が容易ではないと思われる資料が、実は河川を使用すると長距離の移動ができることが確認できた。実際に、華北平原の旧水路



## 墓誌の重量と運搬ルート



からは木船とともに大量の陶器類が発掘されていることもあり、舟による河川の移動を行えば、石質の資料でも長距離の運搬ができ、その物理的な可能性や古河川の位置の復元から、洛陽で作られた資料、あるいは洛陽に居住する技術者が白溝・清川を利用して、物資や人の移動を可能にしていたことを検証した（上の2つの図は北魏洛陽の都につながる陸路・水路、埋葬地と埋葬地の近くを流れる河川、墓誌等の移動経路の可能性を示したものである。）

(5)研究最終年となる2018年度内には、4回の現地調査を行った。主たる地域は、西安、鄭州、洛陽、石家荘とその周辺の地域である。今年は墓誌石と同時に作られる墓誌蓋石に注意をした。というのも、墓誌は墓誌石と墓誌蓋石の2石によって構成されることが多いが、実際に墓誌蓋に視点をあてた研究は少ないからである。墓誌と河川の関係性を追求するとしても、墓誌蓋石の出土状況や資料名称は十分に整理されていない状況にあり、南北朝から隋代にかけての資料を包括的に整理しておく必要があると考えた（下図は、華北平原に二本の河川が流れ、河川の周辺にある石刻遺址の残されている地点を示したものである。）。整理の結果、墓誌石に北魏～

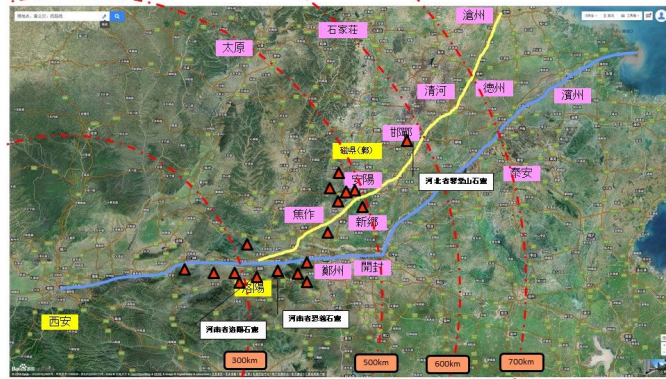


隋の年号が刻まれる墓誌蓋石は約300件あることが把握できた。これらの形式的な変化を北魏、北齊・北周から隋について追った結果、

については、北魏の資料は次第に篆書が用いられるようになり、特徴的な筆法も目立つようになってくること、これらの特徴は北齊に受け継がれることを確認した。またについては、北齊の技法は受け継がれているが、北周についてはあまり受け

継がれておらず、同じ西安という地に拠点のあった北周と隋の資料に一致が少ないことが確認できた。このことにより、外形的な特徴から見れば、北魏、北齊、隋と技術伝達・書法伝達が行われ、水運によると思われる書法伝達がかなり強く表れたことが明らかにできた。

## 西安からの距離と墓誌・石窟の位置



(6)研究の成果として、5本の論文(内3本は査読を経た学术论文)、学术団体での3回の口頭発表を実施することができた。

### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計5件)

東賢司、北魏・北齊から隋への石刻作製技術の伝承 墓誌蓋の形式的変化を追う、全国大学書道研究、査読有、第12号、2019、17-28

東賢司、墓誌研究序論、愛媛大学書道研究、第9号、2019、1-13

東賢司、清水・白溝周辺出土の北魏墓誌銘の書風と河川の関連性 - 『水経注図』を手がかりとして -、全国大学書道研究、査読有、第11号、2018、5-15

東賢司、北魏洛陽の墓誌と水運の関連性に関する一考察、全国大学書道学会、査読有、第10号、2017、15-26

東賢司、常用漢字と墓誌銘の字体、愛媛大学書道研究、第7号、2017、1-35

[学会発表](計3件)

東賢司、北魏・北齊から隋への書法伝達 - 墓誌蓋の変化に注目して -

全国大学書道学会臨時発表会 2018年10月13日

東賢司、清水・白水周辺出土の北魏墓誌銘の書風と河川の関連性 - 『水経注図』を手がかりとして -

全国大学書道学会東京大会 2017年9月30日

東賢司、北魏洛陽の墓誌と水運の関連性に関する一考察

全国大学書道学会盛岡大会 2016年9月25日

2018年度の研究成果は9月30日(日)に実施される予定の全国大学書道学会滋賀大会(会場滋賀大学)で公表する予定であったが、台風直撃による交通網の遮断のため、急遽中止となった。そこで、機会を改めて作り、10月13日(日)に跡見学園女子大学文京キャンパスで実施された臨時発表会で成果発表を行った。

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.higashi-kenji.com/>

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。